



7月8日、日曜日の朝。久々に雲の切れ間から青空が見えて、少しほっとしました。が同時に、広島や岡山など多くの地域にたくさんの被害が出ていることを知り、心が痛みました。雨や風は、人間の営みには欠かせない大切なものだとかわかっていても、台風や大雨、地震などの災害は受け入れられませんし、避けたいものです。

6月の地震に続き、今回の大雨の影響で3日間休園することにしました。遠足や運動会のように、雨天を予想して延期できる行事もありますが、季節の節句に関しては動かせるものではありません。7月7日を休園にせざるを得なくなり、非常に残念な思いで空を見上げました。実は、5日に大学の林から竹を2本、久山さんと中塚さんの力も借りて先生たちみんなで園に運んでいたのに、笹の配布だけでもできないものかと思いました。子どもたちが作った笹飾りをお家で笹に飾ってあげてほしいと思ったのです。けれど、警報は一日中解除されることはありませんでした。皆さんのお家では、どのような七夕の夜を過ごされたのでしょうか……。

7月9日。子どもたちが登園し、各部屋では七夕に関する話をしたようです。年少児・年中児・年長児共に、数人の子どもから、お家で笹飾りを作った話や笹をお店で買った話、夜にお星さまは見えなかった、という話が出たそうです。そんな中で意外だったのが年長児でした。どの学年よりも七夕の話になるのかと思いきや、担任の顔を見るなり日曜日にあった地震の話が飛び出したそうです。また、英語で遊ぶ時間に来園してくれていたケリスさんが帰国されるため、クラスで作ったプレゼントの箱（袋に入っていたのに）を目ざとく見つけて、「今日、ケリスさん来るの!？」とケリスさんの話に花が咲いたということでした。

年少児は、ホールでの七夕まつりを経験していませんし、作った笹飾りを9日に持って帰ることに何の疑問もなく、お迎えのお母さんに嬉しそうに見せていたと聞きました。

各学年の担任は、ホールに飾るためにみんなで作った笹飾りを、来年の七夕まつりまで大事にしまっておくことを子どもたちには伝えました。そして、子どもたちが七夕の取り組みに対して、どのような受け止め方や理解をしているのかをしっかりと確認した上で、次の取り組みを重ねて、子どもの成長に繋がりたいと思っています。

七夕まつりができなくなるという経験は私たちも初めてのことで、この3日間でいろんなことを考えました。飾りを作った子どもの気持ち・大きな竹を運べなかった年長児の気持ち（担任は当日に伝えるつもりで、子どもたちには話していませんでしたが）・笹配布のお世話をしてくださる役員さんの気持ち・コーラス部や人形劇部のお母さん方の気持ち・行事について等々……そして、9日に登園してきた子どもたちの様子から、子ども観についても改めて考えました。そして、以前から理解していたつもりではいましたが、【子どもは前を向いて生きている】ということを確認しました。

ある日突然何かが起こっても、（こんなはずではなかった）と悔やんだり落ち込むことを最小限にするために、【今をどう生きるか】【この瞬間を大切に】して毎日を過ごしたいと思っています。

そして、七夕まつりはできませんでしたが、今日は「おたのしみ会」と称して、みんなでホールに集まって楽しみたいと考えました。

おたのしみ会

- ☆ うた「関大幼稚園こどものうた」・・・みんなで
 - ☆ 人形劇「たなばた」・・・人形劇部のお母さん
 - ☆ 年少児のうた「プールのうた」
 - ☆ 年中児のうた「なみと貝がら」
 - ☆ 年長児のうた「うみのそこにはあおいうち」
 - ☆ 「見上げてごらん夜の星を」「金魚のひるね」「浜辺の歌」「たのしいね」
- ・・・コーラス部のお母さん

☆ 年長児がお部屋で歌っている「かえるのうた」を年少・年中児も教えてもらって歌いました。そして、コーラス部のお母さん、人形劇部のお母さん、先生たち、そして子どもたちとで「かえるのうた」の輪唱を楽しみました。